

清流といで湯の里

会津高原

# 湯の森の寝しみな

川べりの引き戸を ガラリとあけると

大きな岩が目に見え込む

岩をくりぬいた石湯と素朴なつくりの小屋

湯につかると 疲れたからだを包みこまれていく

街の生活で 疲れきった心まで ほぐされていく

目を閉じると どうおーどうおーと

川が呼びかけてくる

耳に風が ひゅーひゅーと 話かけてる

忘れていた 自然の息吹が かつけてくれる

宿にもいると 湯の花の あつい人情が迎える

至福のときが 一リリある



写真は温泉エッセイスト 山崎まゆみさん  
HP <http://ingsnet.com/mayumi/>

共同浴場 石湯



㊦ 大嵐山(おおあれやま)



■標高 1,635m

湯ノ倉山の奥にそびえる古くから信仰の山として登山に親しまれた秀峰。登山道は整備されており、山道にはトチ、シダ、サワグルミの原生林やアズマシャクナゲの群生地が広がる。山頂からの360度のパノラマがすばらしい。

福島百名山

\*5月最終日曜山開き

山頂まで徒歩2時間30分

㊦ 湯ノ倉山(ゆのくらやま)



■標高 1,343m

大嵐山の手前にそびえ、登山も大嵐山からの縦走もできる。湯ノ倉富士とも呼ばれる形のきれいな山で、紅葉、初雪の雪景色が美しい。

\*山頂まで徒歩

1時間30分

田代山(たしろやま)



■標高 1,971m

25haの山頂湿原があり、いっせいに花をつける高山植物が見られる。また、山頂からの会津駒ヶ岳、日光連山の眺めも美しい。

\*湯ノ花温泉から車で40分

猿倉登山口から

山頂まで徒歩1時間30分

6月第2日曜山開き



㊦ 大滝・小滝(おおたき・こたき)



湯ノ岐川の大小二つの滝で新緑はもちろん秋はもみじとあいまって絶景を演出する。罅穴と呼ばれる川床の岩が削られ大小のくぼみができる大釜小釜もいっしょに見ることができる。



湯ノ岐川(ゆのまたがわ)



水源は田代山。集落を二分するように流れる清流。川床の大小の礫岩により、速い流れや、静かな流れ、大小の滝を見つけることができる。6月最終日曜に溪流釣大会が行われる。(西根川と毎年交互開催)

㊦ 白糸の滝(しらいとのだき)



湯ノ倉山を水源とする滝沢川が湯ノ岐川と合流する寸前で岩盤の上を流れ落ち、見事な白糸の流れを見せる。雪解け時の水量が多い時期が見ごろ。

㊦ 渡沢(わたざわ)



貴重なぶなの原生林があり集落の水源として大切にされていて、絶え間なく湯ノ岐川に水を供給している。夏でもひんやりとした清涼な空気を味わうことができる。



赤かぶ(あかかぶ)



周辺の畑で採れる赤かぶは、この地方でしかでない独特の赤色をしており、各旅館、民宿ごとに漬けられた味は格別で、秋から冬にかけて必ず膳に並べられる。

裁ちそば(たちそば)



周辺の畑で栽培された地粉を使用し、手打ちで出されるそばは、清流の水を使用していることから、その味はひきしまっていて美味しい。また8月中旬からそばの花が咲き見事である。





⑭滝沢川



⑬大嵐山山頂



⑫大嵐山登山道に見られるシャクナゲ

2⑬  
嵐山

▲湯ノ倉山  
3

沢川

に 白糸の滝

龍釜

温泉交流センター

県道栗山館岩線

湯の橋

鍛冶沢川

ほ 渡沢・ぶな原生林

る 温泉神社

と 湯端の湯

⑩しらかば公園

⑦六地藏

⑨雷神様

⑧石切り場

至 木賊温泉  
唐沢峠

至 栃木県日光市  
水引集落  
田代山

堤山

こごり山



# 湯ノ花マップ



⑪しらかば公園キャンプ場



⑩しらかば公園沿いの湯ノ岐川



⑨雷神様



⑥そば畑



⑦六地藏



⑧石切り場





⑱二荒山神社



⑯旧石湯橋



⑮冬の滝見橋



①案内看板



②歓迎看板



③稲荷神社



④光照寺



⑤湯ノ岐川に合流する鍛冶沢川



山桜(湯ノ花温泉のいたるところにみられる)





# 湯を楽しむ

◎ゆをたのしむ

石湯(いしゆ)



湯ノ岐川べりに位置する。川原に湧くお湯を引込んでいる。大きな自然の岩をくりぬき湯船としていて石湯と呼ばれる。

●混浴

湯端の湯(ゆばたのゆ)



湯ノ岐川のかたわらに位置する。湯ノ花で一番古い湯で山裾から大量に湧きだしていることから、山腹に温泉神社を祀っている。

●男女別

湯ノ花温泉は700年前の鎌倉時代に発見されたと伝えられ、幕末の米沢藩士、雲井龍雄も利用したと伝えられている。湯ノ岐川の上流から順に湯端の湯、天神湯、弘法の湯、石湯の4つの共同浴場があり毎朝地元の人が湯を落とし掃除をして使用している。

泉質はいずれもナトリウムやカルシウムを含む単純泉で、婦人病、神経痛、疲労回復に効果がある。 ＊入浴券の購入が必要です。お近くの商店・旅館・民宿で購入してください。

■入浴料 200円 ＊一般の利用は午前6時～午後10時まで 1入浴券で当日限り4共同浴場入浴可



弘法の湯(こうぼうのゆ)



餅沢川沿いに位置する。弘法様を祀っていた場所に開かれたため、弘法の湯と呼ばれる。木造で建替えられ、シャワーも新設された。

●男女別

天神湯(てんじんゆ)

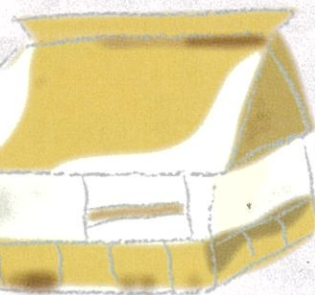


湯ノ花大橋のたもとに位置し、窓をあけると湯ノ岐川を見下ろすことができ、眺めが良い。近くに天神様を祀っていることから、天神湯と呼ばれる。

●混浴

# 里を楽しむ

◎さとをたのしむ



館岩には腕のいい職人さんが多く、雪が深いため、しっかりした構造の建物がつくられてきた。ていねいに探すと、由緒ある建物や素晴らしい職人技を見つけることができる。

温泉神社(おんせんじんじや)



湯端の湯にちなみ祀られた神社で、鳥居は堤山の石切り場から切り出された石を組み上げた独特の形をしている。この石は湯端の湯の女湯浴槽にも使われている。

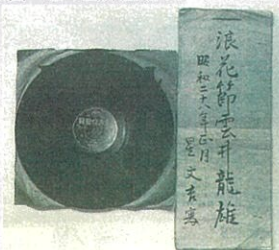
湯ノ花舞台(ゆのはなぶたい)



雲井龍雄(くもいたつお)



浪曲 恋の雲井龍雄のレコードと台本



南会津地方は昔から農民歌舞伎が盛んだった。湯ノ花舞台は1889年の建物で、県内でもっとも古く、遺構もよく残されており、町の指定重要民俗文化財になっている。近くに二荒山神社もあり、木立に囲まれた静寂な雰囲気を楽しむことができ、見晴らしもよい。

雲井龍雄は幕末の米沢藩士で、戊辰戦争時會津藩を助けようとして沼田街道を南下し、尾瀬越えの際に湯ノ花温泉に投宿したといわれている。その時に宿の娘と恋に落ちた物語が浪花節「恋の雲井龍雄」宮川右近作曲によりうたわれている。また雲井龍雄の詠んだ詩は今でも詩吟愛好家の間で愛されている。



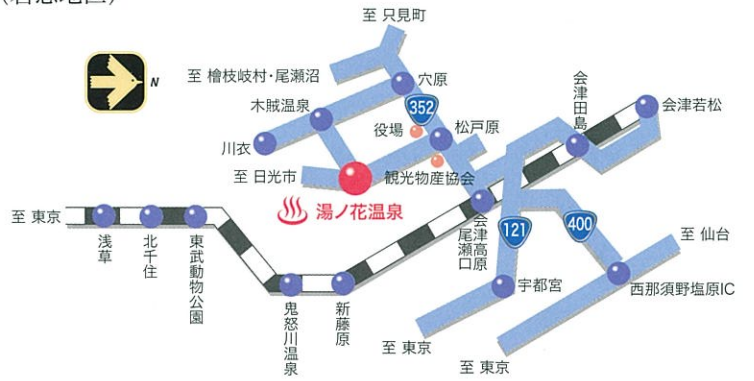
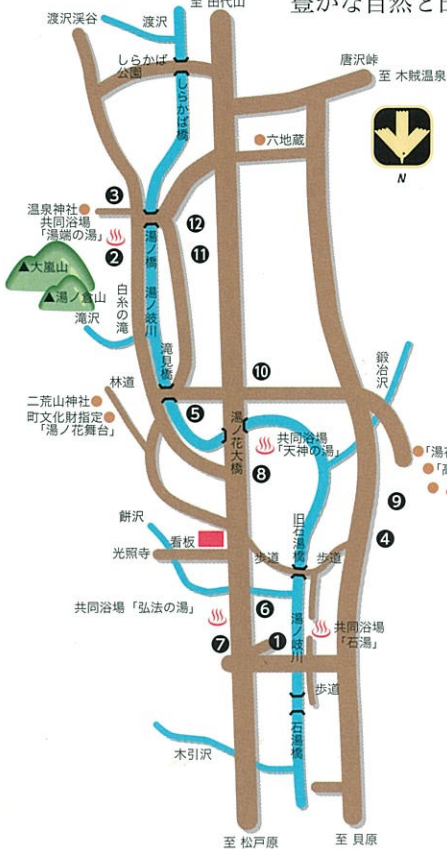


# 湯ノ花の楽しみ方



福島県の南会津町館岩地域には昔から知られる湯ノ花温泉がある。始まりは鎌倉時代といわれ、清流湯ノ岐川沿いに点在する四つの共同浴場は疲れをいやす温泉として、地元の人にはもちろん、登山者や釣客にも利用され愛され続けている。共同浴場を中心に旅館、民宿が点在し、豊かな自然と素朴な人情をこころゆくまで楽しむことができる。

豊かな自然と田園風景（岩窓地区）



■東北自動車道・西那須野塩原IC→R400号線 頭尾トンネル経由  
→R121号→R352号（西那須野塩原ICから約60km）  
■会津鬼怒川線・会津高原駅尾瀬口駅下車（東武浅草駅から直通快速で約3時間）  
→会津高原尾瀬口駅から尾瀬檜枝岐方面行きバス約30分

## 湯ノ花温泉の宿ガイド

① 旅館・末廣 ☎0241-78-2513	⑤ 宿・紅葉館 ☎0241-78-2271	⑨ 民宿・北の家 ☎0241-78-2503
② 旅館・清瀧 ☎0241-78-2214	⑥ 民宿・いせや ☎0241-78-2515	⑩ 民宿・かじや ☎0241-78-2413
③ 旅館・湯本屋 ☎0241-78-2059	⑦ 民宿・ふじや ☎0241-78-2627	⑪ 民宿・みちのく ☎0241-78-2334
④ ペンション・山の音 ☎0241-78-3278	⑧ 民宿・本家・亀屋 ☎0241-78-2519	⑫ 民宿・山楽 ☎0241-78-2201

ご案内・宿泊予約先

福島県南会津町観光物産協会館岩観光センター

お問い合わせ先

福島県南会津町館岩総合支所振興課

〒967-0304 南会津郡南会津町松戸原156番地  
TEL 0241-64-5611 FAX 0241-78-3155  
URL <http://www.kanko-aizu.com>

〒967-0304 南会津郡南会津町松戸原50番地  
TEL 0241-78-3330 FAX 0241-78-3008  
URL <http://www.minamiaizu.org>